

答辞

平成21年度 各務原市スポーツ少年団野球部会所属6年生を代表しまして、一言お礼を申し上げます。

僕達16団の6年生170名は、本日をもちまして卒団することになりました。

在団中は会長さんをはじめ、監督、コーチ、母集団の皆様にはお世話になりました。

そして、野球をやっている中で一番大切な大会にあたっては、各務原市軟式野球連盟の皆様、各務原市スポーツ少年団野球部会の林会長様、海津審判長様、そして審判団の皆様、各団会長様ほか、多くの方々に大変お世話になりました。

感謝の気持ちでいっぱいです。

ただ今、尾崎野球・片峰監督様より心温まる送辞をいただきありがとうございました。僕達が中学校生活で壁にぶつかった時、その一言ひとことは苦難を乗り越える活力になることと思います。

思い起こせば、

僕は2年生の時に入団しました。

多くの仲間は野球がやりたくて入団してきていましたが、僕に限ってはおとうさんに言われ入団しました。

もう低学年の頃の事は覚えていませんが、いつもガミガミ怒るおとうさんが野球の時は嫌でした。

失敗した時は、いつもお父さんが何処にいるのか探したような記憶もあります。

そんな失敗した時に限ってしっかり僕を見ていたおとうさん。

でも、いいプレーをした時には何処にも居ないおとうさん。

高学年なって判った事は、ソワソワ・ドキドキしているのは僕たちでなくおとうさんだったと言う事です。

6年生になった時、おとうさんは会長でしたが、接戦になってくると本部席から居なくなり、ベンチやスタンドで大きな声をかけてくれる姿をよく見ました。

そんなおとうさんを喜ばせてあげる事が出来たのが、県学童への出場権を取った事です。

今思えば、わからないままに野球に入れさせられたんですが、野球が中心のこの5年間で、野球に入れてくれたおとうさんへの感謝のプレゼントがこの県学童の出場権だったと思います。

さて、ここにいる16団170人の仲間達。

他の学校の選手とも随分仲良くなりました。

野球では勝ち負けの勝負ですが、試合をしていない時に友達として話をしたりする事が出来たのは、監督さんが野球や試合以外にも大切な事を教えてくれたんだと思います。

中学になると他の小学校の選手と一緒にチームになります。

これまでに仲良くなって友達もいるので、すぐ良いチームができるだろうと思います。

いまはワクワクしています。

最後になりましたが、母集団の皆様にもう一度御礼申し上げます。

お父さん方、日頃のグラウンド整備や遠征の時の車出し、キャッチボールの相手にノック打ちなど、ありがとうございました。

お母さん方、早朝のお弁当作りやユニフォームの洗濯、お茶当番など、本当にありがとうございます。

今は感謝の気持ちでいっぱいです。

野球がこんなに楽しかった、そして楽しいものだを知ることができました。

平成22年3月13日

各務原市スポーツ少年団 野球部会所属チーム代表
那加第一野球 主将 『野球少年になった』内田健太